

|       |   |
|-------|---|
| 研究テーマ | [ IV 人や作品との対話やかかわりを大切にした造形教育を考える ]<br>友人や教師とのかかわりを通して作品や版表現への見方や感じ方を広げる学習指導の工夫<br>－ 小学校第 2 学年「くるくるはんがでまほうをかけよう！」の実践を通して － |
|-------|---|

行方市立羽生小学校 教諭 渡邊 朋子

### 1 研究テーマについて

低学年の時期の児童は、作品を見たり、つくったりしているときに、自分の見付けたことを独り言のように口にしたり、友人の話に耳を傾けたりする姿が頻繁に見られる。このような傾向を生かして、自分たちの作品などを進んで見たり、触ったり、話したりするなど、自ら働きかける能動的な鑑賞活動を行うことで、この時期の児童が働かせている鑑賞の能力を一層伸ばすことになる。

そこで今回は、身の回りの作品を互いに鑑賞し、児童同士が自分の気持ちや印象、体験などを自由に交流できるような時間や場などを工夫して学習指導を設定していきたい。さらに、一人一人の気付きを交流し合った後に、その見方や感じ方が児童の造形活動に十分に発揮できるよう、低学年でも簡単に取り組めるような版画の教材を工夫していきたい。

また、児童の「思い」を実現させるためには、児童の活動を適切に支援することが大切であると考えている。児童のもっているイメージは何かを対話やワークシート、作品などから具体的に把握し、そこから得られた情報を基に、教師から働きかけを行っていく。自信をもって取り組んでいる児童には賞賛の気持ちを伝えたり、製作に戸惑っている児童にはその原因や解決方法を一緒に考えたりすることで、つくることへの意欲を高めていきたい。さらに、指導に生かす評価を行うことで、児童が作品や表現への見方や感じ方を深めたり、広げたりすることができるようにしていきたい。

### 2 実践例

(1) 題材名 くるくるはんがでまほうをかけよう！

(2) 題材の目標

紙版画やローラー版画を用いて、版あそびを十分に楽しみ、形や色について感じたことを話したり、写すことを試したりしながら、発想を広げる。

(3) 題材について

本題材は、学習指導要領解説図画工作編第 1 学年及び 2 学年の指導内容 A 表現 (2) ア「感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと」と B 鑑賞のイ「感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと」を主な内容としている。

そして、紙版画やローラーあそびの体験を思い出しながら、写してみたい形や色の工夫をし、いろいろな写し方に関心をもって表していく題材である。紙版画を写したのから想像を広げて、ローラー版画で表す背景の模様を工夫して表していく。版画を体験したことのある児童が少ない本学級では、紙版画やローラー版画を使い、写すことを何度も試しながら、版に工夫を加えさせたい。

そこで、友人と交流する機会を設けたり、互いに鑑賞がしやすい場の設定を工夫したりすることで、自分が感じたことを話したり、友人の話を聞いたりしながら、作品の形や色、表し方の面白さに気付くようにさせたい。また、「バージョンアップタイム」として、交流することから得た気付きや思いを表現に活かすことができるような造形的活動の時間を設定したり、低学年でも表現に工夫が加えやすいような版画の教材としてローラー版画を活用したりするなどして、一人一人の思いや願いに近づけるようにしていきたい。

(4) 評価規準

| 造形への関心・意欲・態度                                      | 発想や構想の能力                                      | 創造的な技能                                | 鑑賞の能力  |
|---|---|---------------------------------------|--|
| 紙版画やローラー版画を使って、版を写したり、表現したいことを表したりすることを楽しもうとしている。 | 紙版画で表したい主人公を思い浮かべたり、それに合った背景の模様の表し方を考えたりしている。 | 版を使った表現を試しながら、イメージに合った形や色、表し方を工夫している。 | 自分が感じたことを話したり、友人の話を聞いたりしながら、作品の形や色、表し方の面白さに気付いている。 |

(5) 指導と評価の計画 (6時間扱い)

※○印は時数

| 時間   | 学習内容・活動   | 評価規準・【評価方法】  |
|------|---|--|
| 第1次② | ・「紙はんがのせかいへようこそ」で、紙版画の表し方を試す。自分の表したい主人公を思い浮かべ、それを紙版画で表す。  | ・紙版画で自分の表したい主人公を思い浮かべて表すことを楽しもうとしている。<br><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関</span> 【観察】<br>・紙版画の技法を試しながら、自分の表したい主人公を工夫して表している。<br><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">技</span> 【観察, 作品】 |
| 第2次② | ・「くるくるはんがでまほうをかけよう！」で、さまざまな模様を表現できるローラー版画を試す。試したことや気付いたことを生かして、紙版画の主人公が喜ぶような模様のローラー版画を工夫して表す。(本時②-1, 2) | ・主人公のイメージに合ったローラー版画の模様の形や色、表し方を考えている。<br><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">想</span> 【観察, 作品】<br>・作品を見せ合い、形や色、表し方の面白さを感じ取っている。<br><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鑑</span> 【観察, 対話】   |
| 第3次① | ・ローラー版画で表した模様を背景に、紙版画の主人公を重ねて刷る。  | ・紙版画とローラー版画の色や形を考えながら、模様の上に主人公を重ねて表している。<br><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">技</span> 【観察, 作品】   |
| 第4次① | ・自他の作品の形や色、表し方の面白いところを見付ける。   | ・自分の作品と友達の作品から、形や色、表し方の面白さを感じ取っている。<br><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鑑</span> 【観察, 学習カード】   |

(6) 本時の展開

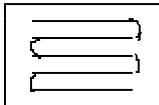
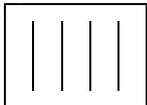
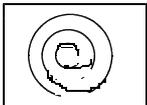
① 目標

形や色、表し方の面白さについて話しながら、主人公のイメージに合ったローラー版画の模様の表し方を工夫することができる。

② 準備・資料

版画用紙 , ミニカーペットローラー , 糸 , はさみ , 絵の具 , 新聞紙 , 掲示資料

③ 展開

| 学習活動・内容   | 指導上の留意点・評価 発問  |
|---|--|
| 1 前時までの学習を振り返る。   | ・前時に刷った紙版画の主人公を、手元に置いて見ること、主人公の気持ちをイメージしやすくする。   |
| 2 本時の課題を知る。   | ・主人公が、喜ぶような模様をローラー版画を用いて表すことを知らせ、創作意欲につなげたい。   |
| くるくるはんがで、しゅん公がよろこぶようなもようをつくろう！  | 今日は、このくるくる版画で魔法をかけます。みなさんの主人公はどんなところにいきたいのかな。主人公が喜ぶようなところに連れて行ってあげましょう。  |
| <p>&lt;まほうのかけ方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糸のまき方</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>なみせん</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>まっすぐ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>うずまき</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れを掲示することで、本時の活動の見通しをもたせる。</li> <li>・前時に教師が見本でつくった紙版画の主人公の魚が、どんなところにいたら喜ぶかを想起させながら、いろいろな模様を紹介する。</li> <li>・水の泡がある海や海草の茂る海、波のある海など、子どもたちが想像しそうな魚の喜びそうなところを例として提示する。</li> </ul> |

・ローラーのころがし方



たて



よこ



ななめ

3 くるくる版画で、主人公が喜ぶような背景の模様をつくる。

(1) ローラーに毛糸を付ける。

(2) ローラーに絵の具を付けて刷る。

4 自分の模様を友人に紹介して、お互いの形や色、表し方の面白さを話し合う。

(1) 友人の作品をよく見る。

- ・毛糸のまき方
- ・色
- ・ローラーのころがし方

(2) グループで感想を出し合う。

- ・丸い形は、楽しそうに感じるね。
- ・青は、水のイメージがするな。
- ・横に転がすと線が地面みたい。

5 自分のイメージに合わせて、模様の形や色などを工夫する。

6 本時の学習を振り返り、次時の学習活動を知る。

・毛糸のまき方やローラーの転がし方の技法を掲示し、様々な表現の仕方があることを伝えるが、無理強いせず、思いに合った方法で表現できるようにしたい。

・魚の背景を、白い紙から模様があるものへと変化させることで、作品全体から受けるイメージが大きく変わることを確認する。

・ローラーづくりコーナーの中央に版画すりコーナーの場を設けることで、ローラーの模様をつくりながら友達が見る模様を互いに鑑賞できるようにする。

・毛糸が剥がれないように、しっかりと上から押さえてローラーに貼り付けることを助言する。

・ローラーのスペアを用意することで、つくったローラー版の模様を残したまま、もう一つ違う模様も製作できるようにし、いろいろな模様や色を試すことができるようにする。

・友人のローラーと交換することにより、色や模様の数が増え、表現の幅が広がることを助言する。

・思いつかない児童には、「自分が〇〇だったら、どんなところがいいかな。」「そこは、どんな色だと合うかな。」など言葉を掛け、発想が広がるよう支援する。

・積極的な意見交換ができるように、グループは生活班とする。また、話し合いの場は、お互いの意見を認め合う学習であることを確認する。

・作品を見る視点を、毛糸の巻き方や色、ローラーの転がし方において話し合うことで、友人の作品のよい点に気づき、自分のイメージを明確にしたり、自分とは違った表し方に触れたりするようにしたい。

**鑑** 作品を見せ合い、形や色、表し方の面白さを感じ取っている。(観察、対話)

・「バージョンアップタイム」として、友人との交流から得た見方や感じ方を活かしながら、作品に工夫を加えるよう助言する。

・好きな色や考えに合った形を大切に、楽しみながら表せるよう、思いをよく聞き、助言するようにする。

**想** 主人公のイメージに合ったローラー版の模様の形や色、表し方を考えている。(観察、作品)

・本時の製作で工夫していた表現を認め、次時への製作意欲を高める。

### 3 成果と課題

#### 【成果】

- 自然に鑑賞し合う姿が見られた。

互いに鑑賞がしやすい場の設定の工夫では、ローラーづくりをする各班のテーブルを教室の周囲に配置し、教室の中央に版画を刷るコーナーの場を設けた。どの児童の机からも近い距離に刷るコーナーがあることで、互いの行き来がしやすいだけでなく、座って作業していても刷っている友人やその作品の様子を確認することができ、ローラーの模様をどうするか迷っている児童にも、視界に入る友人の作品を参考にすることができた。また、ローラーづくりコーナーと版画すりコーナーの移動距離が近いことで、作品に工夫を加えたいときに、すぐにローラーづくり作業台である自分の机にもどり、活動を始めることができた。さらには、中央の版画すりコーナーに学級の全児童が代わる代わる来ることで、友人の作品を鑑賞することができた。



(活動の中で鑑賞し合う様子)

- 交流することで、形や色、表し方の面白さにより一層気付くことができた。

友人との交流では、学習活動の中にグループで話し合いをする機会を取り入れた。低学年では、活動を途中で止めずに表現と鑑賞が一体となっていることが望ましいが、その時間の学習の流れを提示したことで、表現する時間の見通しをもつことができ、表現したいという意欲を低下させずにグループ鑑賞を行うことができた。そして、自分が感じたことを話したり、友人の話を聞いたりすることで、作品の形や色、表し方の面白さに気付き、いいなと思うところを自分の作品にも取り込む姿が見られた。また、教師の側も、ただでは分からなかった児童がもつ作品への思いやイメージをつかむことができ、それらを造形活動中の指導に活かすことができた。



(グループでの交流)

- 表したいことを自ら見付けて表すことができた。

「バージョンアップタイム」として、グループでの鑑賞の後に作品に工夫を加える製作の時間を設定した。友人との交流から得た見方や感じ方を、自分の作品にも取り入れる時間を十分確保したことで、作品の形や色、表し方などの表したいことを見付け、それらを作品に付け加えて表すことができた。

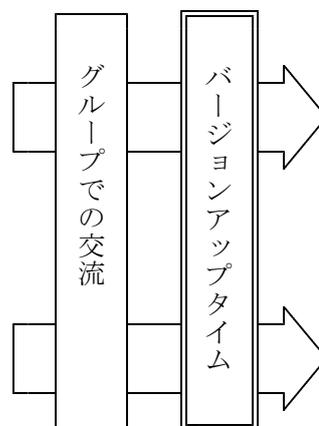
<バージョンアップ前>



「もっと楽しそうな雨にしたいな。」



「K君のように2色で明るくしたいな。」



<バージョンアップ後>



- 容易に背景の模様を工夫することができた。

背景を表現する教材としてローラー版画を設定した。難しいと思いがちな版画で自分のもつイメージが表現しやすいように、カーペットローラーに毛糸を付けて自分で模様をつくれるようにした。毛糸を付けることが簡単である上に、模様をつくり直したいときには、ローラーの紙を一枚剥がすだけで次の模様をすぐにつくることができた。また、初めの模様をとっておきながら、もうひとつの違う模様を試すことができるように、粘着部分の替えも用意した。そのおかげで、友人のいいと思うところを取り入れながらもうひとつ模様を考える児童が多く見られた。ローラーに毛糸を付ける時間も10分程度と短時間で言うこともできたため、何度も繰り返して取り組むことができ、意欲の持続につながった。



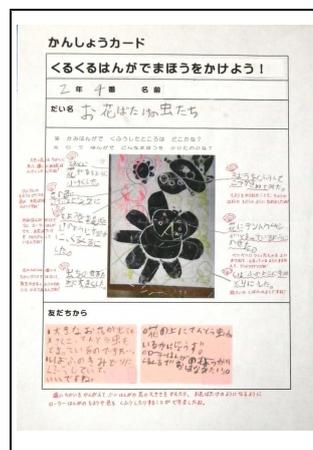
(ローラーに毛糸を付ける活動)

- 対話やワークシート、鑑賞カード、座席表を評価に活かすことができた。

活動の場面で児童と積極的に対話することで、作品や観察だけでは分からなかった一人一人の思いを把握することができ、何につまずき、どのような手立てが必要なのかを考えながら助言することができた。また、ワークシートに自分の考えを書かせることで、作品に込められた思いに共感し、寄り添うことができた。



(児童との対話)



(鑑賞カード)

### 【課題】

- 紙版画において発想を広げる工夫の設定。

ローラー版画においては、学習の目標であった「版あそびを十分に楽しみ、形や色について感じたことを話したり、写すことを試したりしながら、発想を広げる」という点をおおむね達成することができたが、紙版画については、発想を広げることまでには至らなかった。紙版画もローラー版画も体験したことのない児童にとって、自然な交流活動が行われても、紙版画では製作することだけで精一杯となってしまった。そこで、紙版画においても発想を広げ表現に活かす造形活動ができる工夫を考えていきたい。

- 用具を使う技能を補助する手立ての必要性。

はさみを上手に使いこなせない児童にとっては、イメージに合うように紙や毛糸をうまく切ることが出来ず、表現する意欲を低下させてしまう場面も見られた。「版あそびを十分に楽しみ」という目標を達成するためには、はさみなどの用具を使う技能を高め、補助する手立てが必要であると感じた。

- 表現が広がる教材の開発。

カーペットローラーを使ったローラー版画が取り組み易いとはいえ、4回以上刷ると粘着力が落ち、毛糸が剥がれてくることがあった。何度も刷ることが出来るような教材を開発することで、より一層つくりたい・表現したいという意欲を持続できるようにしていきたい。

参考文献 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 文部科学省 平成20年8月  
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校図画工作」  
文部科学省 国立教育政策研究所 平成23年11月